

神戸ムスリムモスク 中山手通2丁目



1935（昭和10）年、日本ではじめて建てられたイスラム教寺院で、神戸ムスリムモスク（通称、神戸回教寺院）と呼ばれている。スンニ派に属すイスラム教寺院で、神戸に住むイスラム教徒の信仰の中心となっている。周辺の建物は第二次世界大戦でほとんど焼失してしまったが、この寺院だけは奇跡的に難を逃れた。



また阪神淡路大震災でも寺院は無事で、倒壊で家を失った近隣住民の避難場所として使われた。インドのイスラム様式といわれる建築で、中央のドームの上には三日月型の装飾があり、大小四基の尖塔が空にむかってそびえている。

場所：中央区中山手通 2-25-14

（見学自由。肌の露出が多い服装は控えるなど配慮が必要です）



第二次世界大戦で焦土と化した神戸
寺院だけは奇跡的に残った
1946（昭和21）年6月



阪神淡路大震災直後の寺院
1995（平成7）年

<過去の写真は、神戸ムスリムモスク提供>

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

神戸ムスリムモスク 中山手通2丁目

●「中山手通（なかやまでどおり）」「下山手通（しもやまでどおり）」の由来

明治のはじめ、山手新道が完成したときに、山手の町ということで名付けられ、北から上山手通、中山手通、下山手通となった。このうち、上山手通はのちに中山手通と山本通に編入されたため消えてしまった。